



宮司プレス 第百九十九号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年四月 四日

◇宮司の柴田です。 境内の満開の桜が春光に映えて、春もたけなわです。



国学者の本居宣長（もとおり のりなが）さんは、

「敷島（しきしま）の 大和心（やまとごころ）を人間はば 朝日ににほふ 山桜花（やまざくらばな）」という和歌を詠（よ）まれています。

日本人の心、大和心は、咲きにおう桜の花のように美しく、尊（とうと）いものであるという意味です。 花を見て美しいと思うのは当然で、しかも、その美しいと思う心が、じつは、素晴（すば）らしく麗（うるわ）しいのです。 坂村真民（さかむら しんみん）さんも、「ごころ

を持つて生まれてきた これほど尊いものがあるうか そして この心を悪く使う これほど相すまぬことがあるうか 一番大事なことは このごころに花を咲かせること」という詩を残されています。 また、近代日本の詩人佐藤春夫（さとつ はるお）さんも詩に、「花を見ていみじと思う心あらばさて生きよ 昨日今日（きのうきょう）よし味気（あじけ）なくとも」と書かれています。 花を見て美しいと思う心があれば、たとえ、毎日がうまくいかずに、エラーばかりで、つまらなくても、また、トライしよう、生きて行こうよという、苦しい時の応援歌です。

◇四月を「卯月（うづき）ともいいますが、「卯の花」の咲く月が由来（ゆらい）と考えられています。「卯の花」は、低木ですが、丸くて白い小さな花を咲かせる花です。 この四月に入り、スタグフレーション（景気が後退しているのに値上がりが続く）が、加速しています。さらに、世界に目を向けると、ウクライナ戦争により、民主主義と権威主義（けんいしゆぎ）の二極化（にきよくか）が、顕著（けんちよ）

で、必ずしもその各陣営（かくじんえい）のつながり、結束（けつそく）も、一枚岩（いちまいいわ）でもなく、堅強（けんきやう）でもありません。 専門家は、現在のロシアと中国の関係は、日米開戦前の日本とドイツの同盟に酷似（こくじ）している、つまり、第二次世界大戦前夜の様相（ようそう）を呈（てい）していると警鐘（けいしやう）を鳴（な）らしています。 混迷（こんめい）深まりゆく昨今（さつこん）です。

◇中世（ちゆうせい）室町時代（むろまちじだい）に能（のう）を大成（たいせい）し、大衆芸能（たいしゆうげいのう）であったものを芸の道へと昇華（しょうか）しようか、レベルアップをすること）された、世阿弥（ぜあみ）さんは、その指導書ともいえるべき「風姿花伝（ふうしかでん）」を著作（ちよさく）されました。 その「風姿花伝」には、「秘すれば花 秘せずは花なるべからず」、さらに、「去年（こぞ）盛（も）りあれば今年（ことし）は、花なかるべきことを知るべし」とも書かれ、論（ろん）されています。 美しいものには、言葉は必要ない、花そのものの存在がすべてであり、まさにそれは、「秘めた多言（たげん）」だとおっしゃっています。 さらに、毎年、同じように花が美しく咲くわけではなく、常に、何事も不変（ふへん）ではないということとを理解して、稽古（けいこ）につとめる大切

さ、「初心忘(わす)るべからず(ちなみに世阿弥著の『花鏡』に書いてあります)」につながる言葉を残されました。

◇平地に桜が咲き、花見をするようになったのは、江戸時代、天下泰平(てんかたいへい)の世になってからです。それまでは、農作業の手を休めて、山の中腹(ちゆうふく)に咲く「山桜花」を観(み)て、その咲き具合(ぐあい)や散りゆく様子(ようす)で、その年の豊作を占(うらな)った予祝(よろこび)の神事でありました。「苗植(え)月(なえうづき)」が、なまあって「卯月」という説もあります。文明や情報も乏(とぼ)しい時代、予測も出来ない時代、満開の桜の花を観て、明日からしつかり農作業を頑張ろう、きつとうまくいく、豊年満作という大目標を確認しあつたのです。私どもも、御先祖様に見習(みなら)って、「こころ」を悪く使うことなく、美しく尊(た)い大和心に、卯の花のような白く小さな花を咲かせることができるようつとめたいものです。そして、その過程には、大難(だいなん)もあり少難(しよなん)もありません。今年(ことし)は花なかるべきことを知るべし、謙虚(けんこ)に、螺旋階段(らせんかいだん)を登りつめていく、スパイラルな成長を続けたいものです。御自愛(ごじあい)をお祈り申し上げます。

◇三月の祭典行事報告

▼月次祭 *三月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭 *三月一日

▼横浜DeNAベイスターズ下関ファン集いの会必勝祈願祭 *三月四日

▼青年神職会氏子青年会合同冬禊(ふゆみそぎ)練成会参拝 *三月五日

▼南風泊恵比須神社例祭 *三月十五日

▼西山小三年生校外学習にて参拝



▼朝粥会 *三月二十一日

▼春季祖霊祭 *三月二十一日

◇三月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

□彦島八幡宮リーグ役員会 *三月十一日

□維蘇志会三十年記念例会 *三月十八日



□神道会総会 *三月二十一日

▼神社庁関係

□教化会議 *三月二日、八日

□役員会 *三月九日

□支部研修会 *三月十六日

▼教誨師関係

□集合教誨 *三月十三日、二十七日

▼自治会関係

□迫町ウオーク参加 *三月十一日

□迫町自治会役員会 *三月二十二日

◇四月の祭典行事宮司動静予定(報告も含む)

▼月次祭 *四月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭 *四月一日

▼福浦稻荷神社例祭 *四月九日

▼荒神社(六連島)例祭 *四月九日

▼金刀比羅宮例祭(竹の子島) *四月九日

月九日

▼戦没者慰霊祭 *四月十五日

▼舟島祭 *四月十五日

▼朝粥会 *四月二十一日

▼昭和祭 *四月二十九日

▼関係団体

□維蘇志会総会 *四月十四日

▼神社庁関係

□県神社総代会研修会 *四月十日

□県敬神婦人会役員会 *四月十一日

□協議員会常任委員会 *四月二十日

□県教誨師会研修会 *四月二十一日

▼自治会関係

□自治会役員会 *四月十二日

□自治会組合長会議 *四月二十二日